



使命の達成は、不可能ではない

Mission NOT impossible

The Christian Science Journal, vol 126 number 2

クリスチャン・サイエンス・ジャーナルより転載 第126巻 第2号

Steve Warren / スティーブ・ウォレン

なにか素晴らしい目的を達成したいとの強い衝動、あるいは靈感さえ感じながら、その衝動を自分で抑え込んでしまったというような経験がありませんか？ 準備不十分、気まぐれな思いつきによる馬鹿げた思い、非現実的な夢、真に価値ある目標ではないなどと、考えてしまうのかもしれない。その目的達成のためには、途方もない努力が必要だろうとか、自分にはそんな時間もエネルギーもないとか、考えてしまうのかもしれない。立ち足るものがあまりにも大きく思えて、気力をくじかれてしまうのかもしれない。

神の呼びかけに応じることに抵抗感を覚えるとき、それがどのような形のものであっても、それは自分だけが経験するものではないことを知ると、気を取り直すことができるでしょう。聖書には、神から靈感を受けて、初めは、その命令に従いたくないと感じながら、ついに、そんな抵抗感に打ち勝って、目的達成に成功した人々の物語が幾つもあります。私たちは、彼らの経験から多くを学ぶことができます。

例えば、出エジプト記の3章と4章には、モーセの話がありますが、彼は、エジプトの王パロの圧政に苦しんでいた同胞たち、イスラエルの人々を、自由にせよとの神の命令を受けました。モーセには、この神の靈感によって示された使命を、拒否する口実が山ほどありました。自分は

他の日本語記事については、次をご覧ください: <http://www.spirituality.com/christiansciencesakigake/index.jhtml>

© 2009 The Christian Science Publishing Society (CSPS). この記事は、50部までプリントアウトして、非営利として実費で提供することができます。この記事メール (email) で送ったり、ウェブサイトに載せたりすることはできません。代わりに、CSPSのウェブサイトに掲載されているこの記事へのリンクを、メールしたり、ウェブサイトに載せたりしてください。この記事の他の出版物に転載する許可を得るには、copyright@cspcs.com 宛に、メールをお送りください。件名は、英語で "Copyright Request" としてください。

そんな仕事をするに値しない者であると、彼は抗弁します。「わたしは、いったい何者でしょう。わたしがパロのところへ行って、イスラエルの人々をエジプトから導き出すのでしょうか」。しかし、神から、次の力強い答えが返ってきます：「わたしは必ずあなたと共にいる」（出エジプト 3:11-12）。

それでも、モーセは抵抗しました。神が彼に現れたなどと、大胆な言葉で語ったにしても、ヘブル人たちは、誰も信じないでしょう。更に、彼は、自分は「口が重く、舌も重いのです」と、なおも抵抗しました。神は忍耐強くモーセに語り、**わたしはあなたの口と共にあって、あなたの言うべきことを教えるであろう**、と言いました。

ついに、モーセは、神から受けた靈感に従って行動し、イスラエルの人々をエジプトにおける奴隷状態から解放しました。モーセは彼らを「約束の地」へと導きました。彼はまた、イスラエルの人々に、十戒を授けました。そして、唯一つの神という概念が、ユダヤ教と、他の2つの世界の主要な宗教であるキリスト教とイスラム教の神学の、根幹となりました。神に耳を傾け、神から受けた靈感による考えに従って行動することにより、モーセは、自分の抵抗感を克服したばかりではなく、彼の同胞のため、また後の世代のために、勝利したのです。

聖書の士師記は、他にも、神性の靈感による考えに、抵抗した人がいることを伝えています。ヘブル人ギデオンは、天使の訪問を受け、自国民を苦しめているミデアン人から、彼らを救うようにとの命令を受けます。ギデオンは、天使の要請に抵抗しました（士師 6:11-16参照）。

ギデオンは、もし、天使が告げるように、「主がわたしたちと共におられるならば」、どうしてヘブル人らは、そもそも、ミデアン人の支配下に置かれるようなことになったのですか、と反論します。また、彼は、先祖たちがエジプト人の手から救われた、あのすべての不思議なみわざ

はどこにあるのですか、と更に尋ねます。どうして、自分たちは、今、新たな支配者のもとにおかれているのですか？ ギデオンは、更に、「わたしの氏族はマナセのうちで最も弱いものです。わたしはまたわたしの父の家族のうちで最も小さいものです」。彼の嘆きは、モーセの言葉とこだましています：「わたしは、いったい何者でしょう。わたしが行って、**あなたの人々を導き出すのでしょうか**」と言っているのに等しいのです。

ギデオンの反論は、もっともなもので、私たち多くの者にも、このように不可能に思われる使命を引き受けることを、諦めさせてしまうようなものだったでしょう。しかし、この**神**の靈感による使命を敢行せよとの考えは、ギデオンの心から離れず、彼にためらいと抵抗を克服させたのです：「**主**は言われた... 『**わたしがあなたと共にいる**』」。この**神**が常に共にあり、力となる、という保証は、モーセが天使から受けた、「**わたしは必ずあなたと共にいる**」という言葉と非常によく似ています。ギデオンも、モーセと同様に、ついに、靈感に従って行動し、同胞たちをミデアン人の圧政から救うために立ち上がったのです。彼はイスラエル人の指導者となり、先頭に立って、他の敵をも打ち負かすことになりました。貧しい家に生まれた、このごく普通の人が、**神**から受けた考えに従って行動しようと決めたとき、一国に大きな益をもたらすことになったのです。

神の命令に抵抗したと聖書が伝える別の人に、ヨナがいます（ヨナ 1~3章参照）。**神**は、ヨナに、二ネベに行き、人々に説教して、彼らの行なっている悪行を指摘するようにと告げます。私たちは誰であれ、他人の欠点を指摘しなさいとの命令を受けて、喜ぶでしょうか？ ましてや、町の住人たち全員に向かって、告げるのであったとしたなら、なおさらです。ヨナは、私たちの多くがすると思われることを行ないました。彼は抵抗したのです。抵抗したばかりではなく、彼

は逃げてしまいました。二ネベとは反対の方向に行く船に飛び乗ったのです。彼はタルソに向かいました。しかし、彼は、**神**から逃れることはできないことを知りました。

海に嵐が起こり、船が沈没しそうになるのを見て、ヨナは、**神**の命令を拒否して逃れようとしたことの誤りを悟りました。彼は謙虚になって、船と船に乗っている人々を救いたいと願い、船員たちに、自分を海に投げ入れさせたのです。そんなときも、**神**の導き、愛、加護は、彼と共にありました。彼は、クジラ、つまり「大きな魚」に飲み込まれ、安全に、陸に吐き出されたのです。ヨナは、この試練を経て、二ネベに行きなさいという**神**の命令を実行することが、自分の使命であることを確信しました。彼はこの**神**の命令に従って二ネベに行き、市民たちに**神**の言葉を伝えました。住民たちは心を改め、町は救われたのです。

神の指示に耳を傾け、実行することに抵抗したのは、旧約聖書の人々ばかりではありません。イエス自身、ゲッセマネの園で、人類に対する彼の使命は、自分が十字架に架けられることを知ったとき、一瞬、抵抗しました。「この杯」をわたしから取りのけてください、と**神**に祈りました（ルカ 22:42）。しかし、彼はすぐに、この**神**への抵抗を退け、「しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください」、と確言しました。イエスが**神**の意志に服従したことが、彼を復活と昇天に導き、歴史の流れを変え、私たちすべてに、**神**の永遠の目的に対する希望と信頼を与えてくれたのです。

ある考えが正しいものであり、それは**神**から来たものであることを知るとき、疑いや恐れが、いくら口やかましく、やらない方がよいと反対しても、私たちは、その考えを実行する力を持っています。ここに述べた聖書の人物は、それぞれ、**神**の指令した使命を達成するための、勇氣、信頼、確信を見いだしました。私たちも、みな同じように行動することができるのです。

スティーブ・ウォレンは、妻と、米国、テキサス州、オースチンに住み、教会の日曜学校で教えている。